

令和5年度 学力向上指導改善プラン

けやき台小学校長 清山 孝利

| 学校教育目標                |   | 夢に向かって堂々と歩む子の育成<br>～人とつながり 笑顔あふれる <b>心ぼかぼかな</b> けやきっ子～  |   |
|-----------------------|---|---|---|
| 推進主体                  |   | 管理職と主幹教諭、学年・教務主任による学校教育改革推進委員会を設置し、以下の改善プランを策定  |   |
| 学力に関する前年度の課題・経年の課題    |   |   |   |
| 学力的状況                 | これまでの全国学力・学習状況調査結果の状況(教科に関する質問紙調査の結果も含む)  | 国語  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆去年度は、「目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見分ける設問」と「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する設問」に課題がみられたが、改善している。</li> <li>○低学年から引き続き、伝える場の設定がある学習を仕組んで、表現力をつけていく。また、国語辞典や漢字辞典を日常的に使って語彙力を育む。</li> <li>○必要に応じて適切な本を選び、豊かな読書活動を行うことで、内容をとらえる力を伸ばし、自分の考えを広めたり、深めたりできるようにしていく。</li> <li>○文章の内容を正しく理解する力とともに必要な情報を抜き出す力が身に付きつつある。どの子どもも分かる授業となるように、「言語活動」などを工夫して取り組むことが大切である。</li> </ul>   |
|                       |   | 算数  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「変化と関係」日常生活の場面に即して、数量が変わっても割合が変わらない事を理解することに課題がみられる。</li> <li>◆「数と計算」数の大きさを見積もる時に、目的に応じて考える事に課題がみられる。</li> <li>◆「図形」プログラムの指示に従って、図形を作図する力に課題がみられる。</li> <li>○四則計算だけでなく、割合の意味や図形の意味や性質など、算数用語を理解する基礎力もつける。</li> <li>○知識にとらわれすぎずに、目的に応じて文章を読み取ったり、活用したりする力を育てる。</li> <li>○図形に関しては名称や性質を暗記するだけでなく、操作活動を通して、空間を認知する力を鍛える。</li> <li>○プログラミングでは、双方向の力を鍛えることを意識して指導する。</li> </ul>  |
|                       |   | ICT機器を効果的に活用した取り組み状況  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ICTを活用した学習状況の改善が必要である。</li> <li>5年までに受けた授業で、IC T機器を週1回以上使用していると回答している児童の割合は、72.9%である。これは、全国平均より10.3%、兵庫県平均より7%下回っている。</li> <li>○ICTを活用した学習状況を改善するために、各教科でのIC T活用場面や方法を各学年の情報教育担当者を中心に再検討する。</li> </ul>  |
|                       |   | 単元・学期末テストなどによる状況(各教科)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆算数科においては、基本の計算力が身につけている児童が多いが、文章題での活用や記述に課題のある児童もみられる。</li> <li>◆文章題から読み取ったことを適切な言葉で表現することや要約することが難しい児童がいる。</li> <li>◆国語のテスト以外では、漢字を活用できていない児童がいる。</li> <li>◆基本的な計算に時間のかかる児童や計算のケアレスミスのある児童が見られる。</li> </ul>  |
| 授業等からうかがえる状況(各教科)     | 国語  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆文章を書く(ふりがな等の記述を含む)ことに時間のかかる児童がいる。</li> <li>◆発表時に必要な声の出方・姿勢が身に付いていない児童がいる。</li> <li>◆入学時にひらがなの読める子・読めない子、数の概念が入っている子・入っていない子の差が大きい。</li> <li>◆最後まで話の聞けない児童がいる。</li> <li>◆線分図や関係図等が書けるが答えと図が一致しない児童がいる。</li> <li>◆家庭学習の定着が難しい児童がいる。</li> <li>◆学習に必要な持ち物が揃わない児童がいる。</li> </ul>   |   |
|                       | 算数  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自己有用感を高める取り組みが必要である。</li> <li>「自分にはよいところがあると思いませんか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童の割合が72.9%である。この割合は、全国平均より6.4%、兵庫県平均より5.3%下回っている。</li> <li>◆「あいさつ」「そうじ」「持ち物への記名」「履き物をそろえる」「廊下の右側を静かに歩く」「下駄箱の使い方」を重点的に継続指導する。</li> <li>◆「読書」は本校の課題の一つとして取り組んでいる。</li> </ul>   |   |
| 校内研究・研修の状況            | 校内研究の状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びに向かう力を育てる～子どもたちが主体的に考え、つなぎ、高め合う授業をめざして～」をテーマに算数科の研究に取り組んでいる。</li> <li>◆よりよい授業づくりのための事前・事後研修を工夫する。</li> </ul>   |   |
|                       | 校内研修の状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通して、算数科授業研究・人権教育・特別支援教育・生徒指導・食物アレルギー対応などの研修を計画的に実施している。</li> </ul>   |   |
| 家庭・校種間連携              | 家庭・地域等の状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーや学校支援ボランティアの協力を得て、学習の成果をあげている。今後も、より効果的な学習活動を工夫し、更なる人材の確保に努めたい。</li> <li>○令和2年度より、地域コーディネーター2名に協力頂き、ボランティア連絡会を持ち連携を図っている。</li> <li>○ボランティア通信を発行し、ボランティアの活動について、家庭へ周知している。</li> </ul>   |   |
|                       | 小・中における教科連携等の状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間を通して継続的な保・幼・小・中・高の交流を計画的に実施している。</li> <li>○けやき台中学校区青少年健全育成連携連絡会を定期開催し、児童・生徒の情報交換や授業参観等を行っている。</li> </ul>  |   |
| 4月                    |   | 2～3月  |   |
| 学力向上に向けての重点的な目標       | 成果となる目標   | 具体的な行動目標  | 年度末評価   |
|                       | (指標となる数値等)  | (成果目標達成のための具体的な手立て等)  | (今年度の成果と来年度に向けた課題等)   |
| ○豊かな心の育成を図る           | ○学校評価アンケート(職員・保護者)の「児童の実態」の項目や子どもアンケートの「自分から進んで明るくあいさつをしている」「言葉使いに気をつけて、友だちと仲良くしている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめ・不登校の未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う</li> <li>・けやき台中生徒会作成いじめ防止啓発カレンダーを校内に掲示する</li> <li>・情報モラル教育講演会を実施し、人権に配慮した正しいコミュニケーション方法を学ぶ機会を設定する</li> <li>・学期はじめに「あいさつ運動」(教師・児童会)を実施し、めざす児童像の「人とつながる子」をめざす</li> <li>・学校外の教育力(ゲストティーチャー)を活用し、多様な考え・生き方・表現等にふれさせる場を設定する</li> <li>・道徳教科書「あかつき」の他「こころはばたく」「心きらめく」「心ときめく」等を活用して、道徳教育・人権教育の充実を図る</li> <li>・人権参観(ハートフル参観)を実施する</li> <li>・人権標語(ハートフル標語)を考える機会を設定する</li> <li>・特別活動委員会を中心に、学級会・児童会を充実させる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題行動等に関連する学校評価アンケート結果では、児童・保護者・職員評価とも昨年度と同程度、肯定的評価90%以上で高評価である。</li> <li>・いじめ等の緊急の指導事案、不登校児童、児童の抱える問題等について、生活指導委員会、不登校対策委員会を中心に、組織的に取り組んでいる。</li> <li>・携帯・スマホ・SNS等の問題について、1～6年生まで発達段階に応じた学習を行った。</li> <li>・「あいさつ」に関する学校評価アンケートの肯定的評価は、職員54%(昨年度74%)、保護者85%(昨年度84%)、児童89%(昨年度92%)となり、三者に意識の開きがある。</li> <li>・全職員が意識して、クラス学年に関わらず声をかけることで、意識改革を促すなど、校舎のあいさつもできるように全職員で積極的に取り組む。</li> <li>・児童会や学年において、児童が主体的に取り組むあいさつについての活動を構築する。3学期に児童会主催のあいさつ運動を実施できた。</li> <li>・ハートフル参観、学級集會を持つ事ができたが、学級集會の参加者が少ないことは、課題である。</li> <li>・今年度、職員が意識して、学校生活の中で、児童をほめたり、がんばりを認めたりする等、自尊心を高める声掛けができた。また、肯定的評価の言葉がけを意識し、児童に「自己有用感」を感じさせることに努めた。</li> <li>・「より良い学校、より楽しい学校」にするために、児童が自ら新しいアイデアを出し合いながら主体的に進められるよう、児童会活動、委員会活動、学級会等支援していきたい。</li> </ul> |
| ○本に親しむ子の育成を図る         | ○学校評価アンケート(職員)の「児童は、本に親しみ、自ら進んで読書し、読書を楽しんでいる」の項目で9割以上の肯定評価をめざす  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月23日を「家族読書の日」とし、学校だよりや図書館だよりで家族読書の啓発を行う</li> <li>・学校司書と連携し、学校図書館と学年文庫の運営を工夫する</li> <li>・学校司書と図書ボランティア(かたつむり)による読み聞かせを継続する</li> <li>・読書週間を設定する</li> <li>・ブックフレンド(図書)委員会の活動を支援する</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートより経年3年間を比較すると、児童アンケート「本を読むことが好き」肯定的評価は、82%→87%→84%。保護者アンケート「子どもはよく読書をしている」肯定的評価は、60%→63%→62%。職員77%→93%→73%であった。引き続き、本校の課題ととらえらる。</li> <li>・今年度は、毎学期、読書ウィークを設定し、全校朝読書を行った。</li> <li>・学年が上がるにつれ読書する時間が取りにくい傾向がある。</li> <li>・今後も職員が意識して、児童の読書時間の確保や読書好きの児童の育成に取り組んでいく。</li> <li>・どの学年も、週一は図書室に来室するように声掛けをする。(本に出合う機会づくり)</li> <li>・今後も、学校と家庭とが連携する。毎月23日の「家族読書の日」の意識を徹底し、宿題などで読書を出し、本を読む時間を確保していく。家族読書の日に、どんな本を読んだのか確認したりして、読書力向上を促す。</li> <li>・国語科の中で、多読、おすすめの本紹介、ビブリオバトルなど、学年に応じて取り組み、本に触れ合う機会を持てるようにする。</li> <li>・学校司書と協力して、学年文庫の充実を図る。</li> </ul>   |
| ○基礎・基本の定着を図り、学習意欲を高める | ○こどもアンケートの「学校の勉強がわかる」の項目で9割以上の肯定評価をめざす  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の学習タイムを継続する(算数)</li> <li>・各学年児童の実態を考慮した、学力向上に向けての取り組みを工夫する</li> <li>・放課後学習日や夏期休業期間等に学力保障(個別指導)を行う</li> <li>・「がんばりタイム」を継続実施する</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価児童アンケートの「学校の勉強はわかる」の肯定的評価は93%で高評価である。</li> <li>・職員アンケートにおいても、この項目における肯定的評価が95%と高評価である。計画的に目標を明らかにした授業、指導と評価を一体化した授業が行われている。</li> <li>・学年で、授業研究と共に評価ポイント、評価方法を話し合い、共通理解のもと、計画的に指導を進め評価できた。</li> <li>・読む・書く・話す等、国語科で培った言語力を他教科でも生かせるような教科横断的な取り組みの推進をしていく。</li> </ul>   |
| ○思考力の育成を図る            | ○学校評価アンケート(職員)の学校運営「研究」の項目で研究の成果を問い、9割以上の肯定評価をめざす   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマ「学びに向かう力を育てる」に沿った授業づくりを行い、思考力の育成をめざす</li> <li>・授業研究を行い、全職員で授業力向上に努める</li> <li>・1月に算数科研究発表会を実施する</li> <li>・算数専科(5・6年)と担任が連携し、児童理解と指導を行う</li> <li>・全国学力・学習状況調査結果を踏まえて、授業改善を行う</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価児童アンケート「算数科の学習で、自分の力で考えたり、みんなと交流しながら自分の考えを伝えたりしている」は肯定的評価が昨年度と同じ92%であり良好である。</li> <li>・自分の意見や考え方を発表し、交流を重視した研究の方向性を職員で共有し、学年で取り組み、その積み重ねが主体的に取り組む児童の姿につながっている。</li> <li>・全国学力・学習状況調査結果における観点では、思考・判断・表現の項目において、正答率が67.7%と全国平均と比べて11.2%高い。また、問題形式においては、選択式・短答式・記述式の中では、記述式において正答率が61.7%と全国平均より13%高い結果となった。また無解答率が低く前向きに取り組む姿が見られた。</li> <li>・今後、四則計算だけでなく、割合の意味や図形の意味や性質など、算数用語を理解する基礎力をつけていく。図形に関しては名称や性質を暗記するだけでなく、操作活動を通して実感を伴う理解を図る。</li> </ul>  |
| ○すこやかな体づくりをめざす        | ○子どもアンケートの「休み時間や体育の時間に進んで運動したり、体を動かそうとしていたりしている」の項目で運動・遊びができていくかを確認する                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな運動遊びができるよう環境整備を行う</li> <li>・スポーツ(体育)委員会の活動を支援する</li> <li>・栄養教諭と連携し、食育を計画的に行う</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価児童アンケート「体育の時間や休み時間に進んで運動したり、体を動かしたりしている」の肯定的評価は91%であり良好である。</li> <li>・今年度は、制限なく運動する機会が増えた。</li> <li>・体育委員会で大縄大会企画し、3学期の休み時間、多くの児童が外で大縄の練習に取り組めた。</li> </ul>   |
| ○生活習慣の確立をめざす          | ○学校評価アンケート(職員)の「生活」の項目や子どもアンケートの「掃除に一生懸命取り組んでいる」の項目で掃除ができていくかを確認する                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「めざす児童像」を学校だよりや学級集會などで提示し、家庭での協力を求める</li> <li>・校内に「学校教育目標(けやきのA(エース)をめざせ!)」や「めざす児童像」(人とつながり笑顔あふれる<b>心ぼかぼかな</b>けやきっ子)の具体を示す合言葉「あかるくあいさつ!」「あきらめず挑戦!」「あつたかことば!」「もくもくそうじ!」「響き合う歌声」を掲示し、全校生が意識できるようにする</li> <li>・掃除が積極的にできるように、掃除用具の点検や指導の工夫をする</li> <li>・学校ビカビカ(美化)委員会の活動を支援する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「そうじに関する学校評価アンケート」結果は、職員89%、児童95%の肯定的評価と、高評価ではあった。</li> <li>・掃除の仕方「けやきモデル」を今年度から実施し、どの学年でも統一した掃除の仕方で行えた。</li> <li>・掃除に対しては、方法の指導だけでなく、その意味を児童とともに考えていくとともに、掃除や整理整頓については、家族の一員としての役割を保護者とともに考えていきたい。</li> <li>・美化委員会が主体となって、掃除道具の使い方やトイレの使い方を意識するような取り組みを行った。</li> <li>・あつたか言葉、場に応じた言葉遣いや、相手のことを考えて話すことなど、特別の教科道徳での指導も含め、今後も継続して指導していく。</li> </ul>   |
| ○保・幼・小・中・高の連携を図る      | ○学校評価アンケート(職員)の「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウツディ・カルチャー・タウン青少年協賛連絡協議会を定期開催し、児童・生徒理解を深める</li> <li>・学校・園だよりの交流を行う</li> <li>・児童の様子について「文書」「口頭」「園所・学校体制」による引き継ぎを行う</li> <li>・年間を通して継続的な保・幼・小・中・高交流を計画的に行う</li> <li>・けやき台幼稚園と若草幼稚園との交流を継続する</li> <li>・5年生と入学予定園児との交流を継続する</li> <li>・けやき台中学校生徒の「トライやる」の受け入れを継続する</li> <li>・三田西陵高校生徒の「こども未来類型小学校実習」の受け入れを継続する</li> <li>・けやき台幼稚園(年長)の出前授業(音楽科)を継続する</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価職員アンケートの「保・幼・小・中連携体制を確立し、学びの連続性を踏まえた指導を行っている」の項目では、肯定的評価が92%であった。</li> <li>・保幼園から小学校、小学校から中学校への学びの連続を意識した指導を行うことができた。</li> <li>・保・幼・小・中・高交流を計画的に行い、授業を見合ったり、情報を共有したりする会を定期的に持つ事が出来た。</li> <li>・算数科研究会では、中学校区の教諭が参加し、外国語科では学びの連続を意識した授業を小中で公開し協力的に研究をすすめることができた。</li> </ul>  |
| ○家庭・地域との連携を図る         | ○学校評価アンケート(職員)「保護者・地域・学校支援ボランティア等と連携して、協働の開かれた学校づくりに努めている」の項目で9割以上の肯定評価をめざす                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を年間を通して計画的に開催する</li> <li>・学校だよりを地域に回覧できるよう配布する</li> <li>・年1回児童・保護者アンケートを実施する。その結果を考察して、家庭に知らせ、成果と課題を共有する</li> <li>・学校だよりやホームページ等で学校の様子を発信する</li> <li>・学校支援ボランティアと連携した授業の工夫を行う</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価職員アンケート「保護者・地域・学校支援ボランティア等と連携して、協働の開かれた学校づくりに努めている」の項目では、肯定的評価が100%であった。</li> <li>・保護者に校内の様子をより分かりやすく伝えるため、HPを頻りに更新し、校長室前の大型モニターにその時々児童の活動の様子をスライドショーで流す等、本校の取り組みを常時発信することができた。</li> <li>・ボランティア通信の年3回発行することができた。</li> <li>・校外学習引率ボランティアや図書貸出ボランティア等新たな取り組みを行えた。</li> <li>・学校支援ボランティアとの連携を深め、小学校の教育活動について保護者及び地域の方々をボランティアとして招き、支援していただく活動を今後も行っていく。活動内容等、データを残し継続して取り組みやすい仕組みを作る。</li> <li>・「地域の方々と一緒に勉強や活動することが楽しい」の児童の肯定的評価は89%で、昨年度より約5%低下した。</li> <li>・ボランティアさんへ手紙を送っていたということへの感謝の気持ちを教師から児童へ意識して伝えていく。</li> </ul>   |